

## 【ポスター発表】

## 知的障害者はいかにして天使に例えられるのか

## 知的障害者を天使と例えるテキストの分析から

北星学園大学大学院社会福祉学研究科 堀内浩 (007352)

〔キーワード〕知的障害, 比喩, 質的研究

## 1. 研究目的

本論では、知的障害者が天使として例えられている言説をエスノメソドロロジーのアイデアを用いて分析する。それにより、どのように健常者は知的障害者が天使であるという言説を自然に理解できるのだろうか、ということを確認にする。つまり、本論ではこういった健常者の論理や多数派の考えとして呼ばれてきた健常者の規範の具体的な理解のなされ方を詳細に記述することを目的とする。

## 2. 研究の視点および方法

本論は、知的障害者が天使として例えられたテキストをデータとして、それがどのように我々にとって自然に理解できるようになっているのかを分析していく。健常者の規範というのは、我々にとってある現象や行為を認識する以前に常識として前提とされている。つまり、それが明らかになるのは規範を逸脱した状況や批判的に検討される場合において、我々に明示される。そのため、健常者の規範は詳細に記述的な分析を行われることはあまりなかった。こうした視点から、現象や行為の相互作用過程を分析する質的研究の方法が適切であると考え、その知見が多いエスノメソドロロジーを採用した。

## 3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守して行われた。

## 4. 研究結果

研究結果として、知的障害者を天使と例える言説は大きく分類して以下の4つの特徴を前提としていることが分かった。

まず、障害者がすでに社会において健常者から差別され不利益を被っている存在であることを無批判的に前提としている。そのため、すでに不利益を被っていることを前提とされている障害者は、そのような不利益を克服するということに焦点が置かれてしまう。つまり、障害者は健常者からの同情を受ける存在であるという意味で、天使として名指され特権視される存在なのである。

また、障害者は健常者よりも特殊であるため、健常者を中心としている現代社会と関

わっていくためには、障害者には一定の試練や才能が必要であるとされている。そのため、健常者を中心とするような規範のある社会においては、障害者は健常者よりも努力することを必要とされる。そして、障害者は健常者よりも劣位であるため、健常者と同等になるためには数多くの挑戦をしていくべきであると見なされる。なお、そういった障害者の挑戦は、健常者が納得して理解できるようなやり方で行わなければならない。つまり、の特徴は、障害者は努力を重ねながら不幸な障害を乗り越えていき、それを克服しながら健常者に少しでも接近しなければならないということである。その姿が健常者にとっては感動的であるという意味で天使なのである。

さらに、障害者を天使と例える側は、一方的に障害者を天使と例えることが可能であるという特徴がある。一般的には、天使と名指され例えられるのは知的障害者やダウン症者である。そのため、その名指しを行う権利を一番所持しているのが天使とされる知的障害者の親など周囲の人間である。つまり、知的障害者が天使であって欲しいのは知的障害者自身ではなく、知的障害者の周囲の人間なのである。結局、健常者から見て障害者は天使であって欲しい、という意味で知的障害者は天使なのである。

加えて、知的障害者が天使と例えられる基礎の中心は、知的障害者やダウン症者は年齢を重ねても健常者の発達を一般的な基準とした場合において、その行為や言動が幼く見えてしまうこと、である。つまり、知的障害者は健常者との比較において成人という段階になっても、社会的な常識や偏見などを持ちえない存在であると見なされる。そのため、健常者には知的障害者のそうした特徴は無垢で汚れていない神聖な存在であると理解されることになる。

同様に、知的障害者は自立、そして自律をすべきであるという健常者の規範を逸脱する存在でもあるとされる。そのため、知的障害者は親や兄弟など自分の周囲に、上のような特徴ゆえ安らぎを与える存在であると見なされる。その一方で、知的障害者はその能力的には成人という健常者の普通であるとする基準には満たないとされてしまう。知的障害者は、親から「自分らの死後にどうやってあの天使が生活をしていけるのか」という心配をさせる頼りない存在でもあると見なされるのである。つまり、無垢であることと自立・自律ができないという意味において、知的障害者は健常者にとって天使なのである。

以上のように、知的障害者を天使であるとする言説には、社会においてどのようなことが普通であるのかという健常者の常識や基準を根拠として、知的障害者がいかにそれらと異なっているのかということが語られていた。その基準から障害者を見た場合には、知的障害者は社会から逸脱した存在であるように見なされる。結局、知的障害者に対する天使という比喻は、健常者から見た一般性や普通であるという基準がいかに知的障害者という存在からずれているのか、ということについて明示されたものなのである。